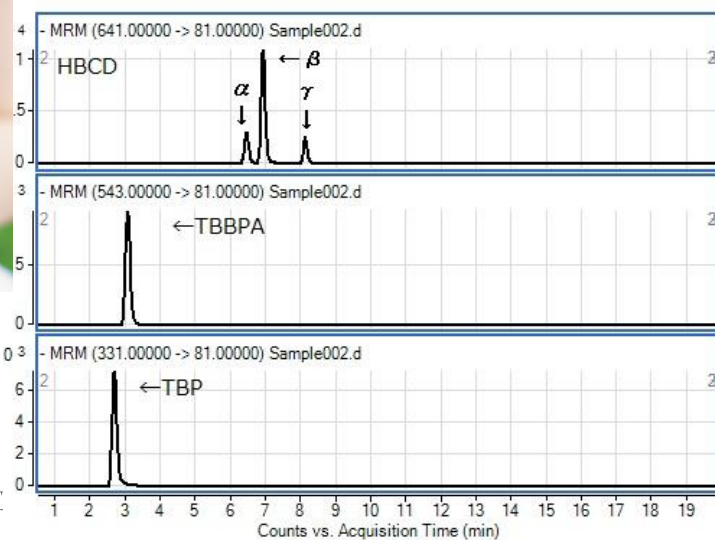
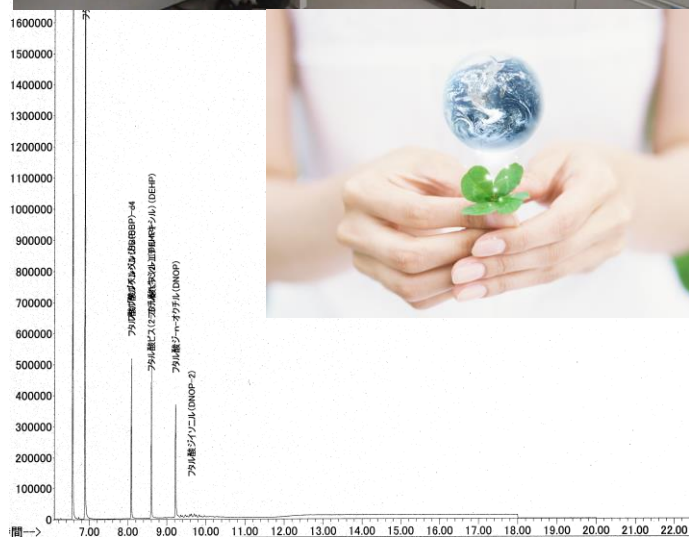


環境負荷物質調査のご案内



RoHS 分析(EU 指令)

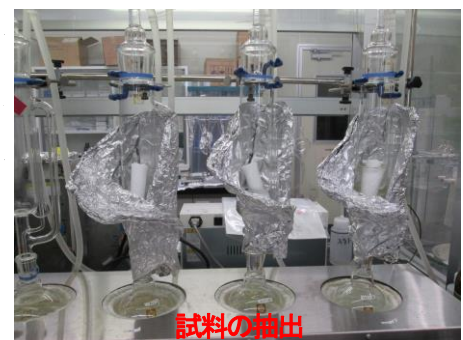
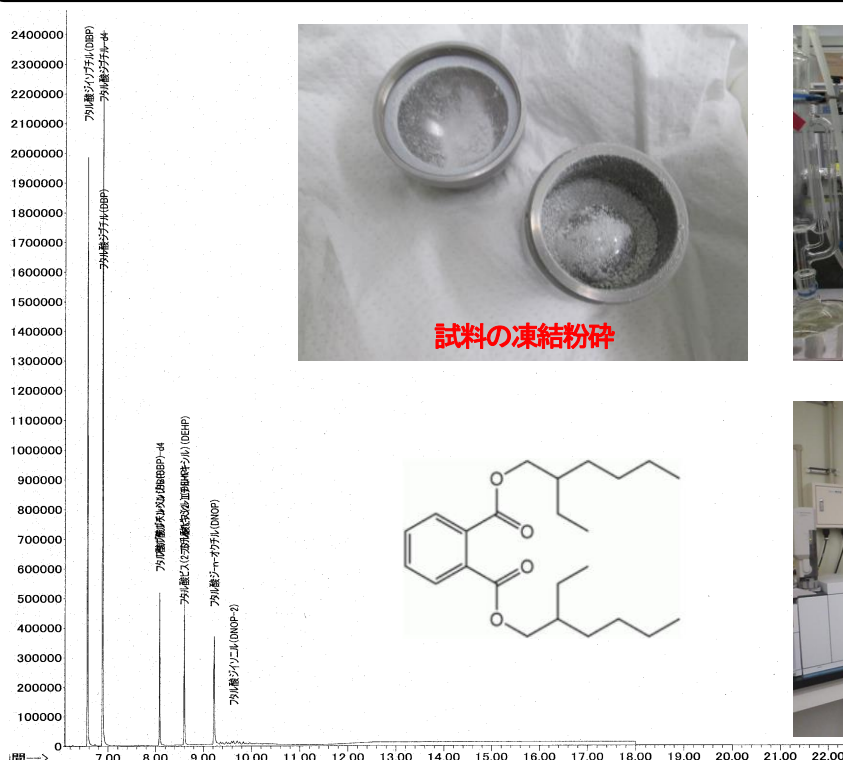
2003 年 2 月 13 日、EU では廃電気電子機器指定(WEEE 指令)と有害物質使用制限指令(RoHS 指令)が公布され、2006 年 7 月 1 日以降、欧州に販売される EC95 条に準拠した電気、電子機器を対象に特定化学物質 6 項目(水銀・カドミウム・鉛・六価クロム・ポリ臭化ビフェニール(PBB)・ポリ臭化ジフェニルエーテル(PBDE))が使用禁止となり、6 項目が含有されている製品の EU 地域への輸出が禁止されています。

さらに、2019 年 7 月 22 日より、RoHS 指令の制限物質は現在の 6 物質から、フタル酸エステル類 4 物質を追加した 10 物質に変更になります。

新たに追加がされたフタル酸エステル類 4 物質については、これまでの制限 6 物質と異なり、ナトリウムよりも重たい元素が存在しないため、蛍光 X 線測定装置を使用した簡易分析は不可能です。

このため、フタル酸エステル類の分析は、高度な技術を要するソックスレー抽出-GC/MS 法で確認するしかありません。当事業団では、お客様のニーズに対応できるように、追加されたフタル酸エステル類 4 物質の高精度な分析をリーズナブルな検査料金でご用意しております。

簡易分析 5 元素 + フタル酸エステル類 4 物質 = 35,000 円～

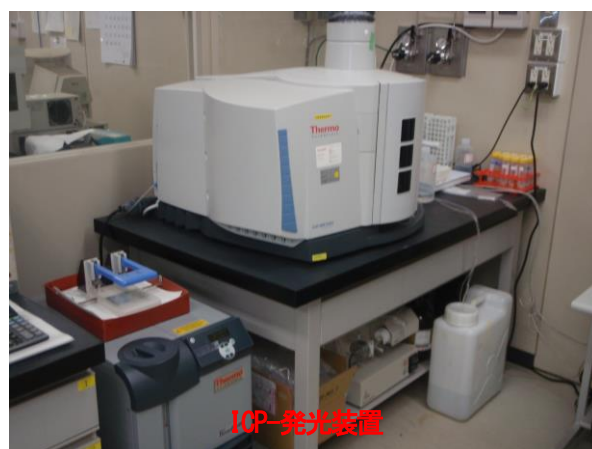
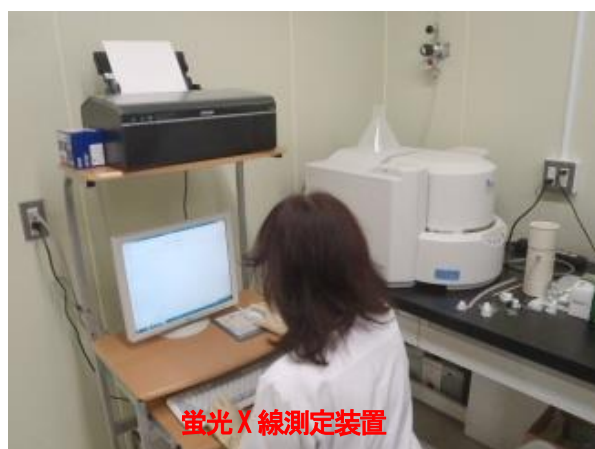


【料金表】

分析コース	分析項目	分析方法	定量下限値	料金(税別)
スクリーニング検査 (簡易検査)	カドミウム、鉛、水銀 全クロム、全臭素	IEC62321 準拠 (蛍光 X 線分析)	10~100mg/kg	9,000 円~
フタル酸エステル 4物質	フタル酸ジ-2-エチルヘキシル (DEHP) フタル酸ジブチル(DBP) フタル酸ブチルベンジル(BBP) フタル酸ジイソブチル(DIBP)	IEC62321-8 準拠 または 「EN14372:2004 (ソックスレー抽出 -GC/MS 法)」	10mg/kg	26,000 円~
4元素精密検査1 (セット料金)	カドミウム、鉛 水銀、全クロム	下記方法	下記内容	25,000 円~
4元素精密検査2 (セット料金)	カドミウム、鉛 水銀、六価クロム(Cr ⁶⁺)	下記方法	下記内容	30,000 円~
個別精密分析1	カドミウム(Cd)	IEC62321 準拠 (ICP-ASE 法)	10mg/kg	8,000 円~
個別精密分析2	鉛(Pb)	IEC62321 準拠 (ICP-ASE 法)	10mg/kg	8,000 円~
個別精密分析3	水銀	IEC62321 準拠 (還元気化 AA 法)	10mg/kg	8,000 円~
個別精密分析4	六価クロム(Cr ⁶⁺)	IEC62321 準拠 (吸光光度法)	—	15,000 円~
個別精密分析5	PBB、PBDE	IEC62321 準拠 (GC/MS 法)	10mg/kg	38,000 円~

※1: 測定対象物が細断等の前処理が必要な場合は、別途前処理が加算されます

※2: 試料媒体によっては、夾雑物の影響のため、上記の定量下限値が確保されない場合があります



PFOS、PFOA の分析(PFOS 類縁化合物など)

PFOS(パーフルオロオクタンスルホン酸)や PFOA(パーフルオロオクタン酸)は、フッ素を含んだ人工有機フッ素化合物で、フッ素系の撥水剤、防水剤、グリースなどに使用されている物質ですが、人体に蓄積する性質が指摘されています。

このため、PFOS に関しては、指定含有量(素材:0.005%(50ppm)、半成品/アーティクル:0.1%、表面処理剤:1 $\mu\text{g}/\text{m}^2$)を超える製品の EU 地域内への生産、輸入、使用が禁止されています。

また、PFOA に関しても、2020 年 7 月 4 日以降、製造と上市を禁止するとともに、PFOA が 25ppb を超えて含有する、または PFOA 関連物質が合計 1000ppb を超える含有する混合物や成形品の製造時使用と上市が原則禁止されます。

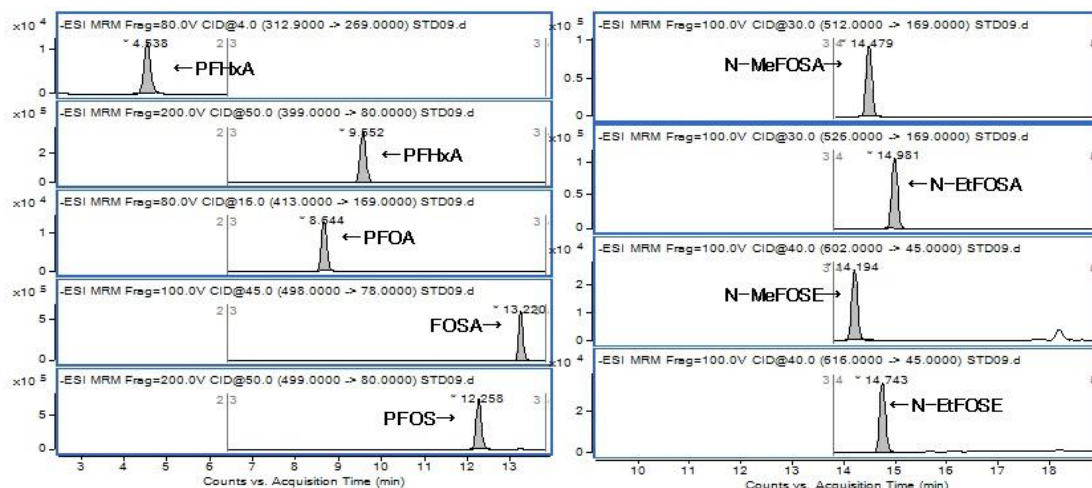
【PFOA、PFOS 及び PFOS 類縁化合物分析の料金表】

試料媒体	定量下限値	料金(税別)	
		基本料金	その他1項目追加料金
製品	0.5ppm	25,000 円	10,000 円追加
	1ppb	35,000 円	
	5ppb	30,000 円	
	0.1 μg/m ²		
消火剤	0.5ppm		
水道水・環境水	0.1ng/L		
排水	1ng/L		

※1 対応可能な PFOA 及び PFOS 同族化合物は、PFOA、PFOS、PFHxA、PFHxS

※2 測定可能な PFOS 類縁化合物:FOSA、N-MeFOSA、N-EtFOSA、N-MeFOSE、N-EtFOSE

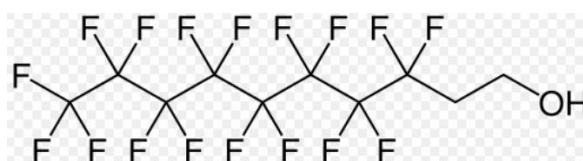
※3 試料由来の夾雑物の影響で、上記記載の定量下限値を確保できない場合もあります



LC/MS/MS 測定によるクロマト (PFCs 標準物質)

フッ素テロマーアルコール(FTOHs)の分析

フッ素テロマーアルコール類 (FTOHs) は、 $\text{CF}_3(\text{CF}_2)_n\text{CH}_2\text{CH}_2\text{OH}$ の構造を持つ重合体であり、防汚、撥油、撥水剤の製造に使用されています。



8:2FTOHsの構造式

しかしながら、FTOHs は、世界的に汚染が確認されているペルフルオロカルボン酸類 (PFCAs) の前駆体と考えられています。また、FTOHs には揮発性があるために拡散しやすく、PFCAs の汚染拡大に寄与しているとされています。さらに、6:2FTOHs と 8:2FTOHs はエストロゲン様作用があるとされ、世界的に規制されていく方向で検討されています。

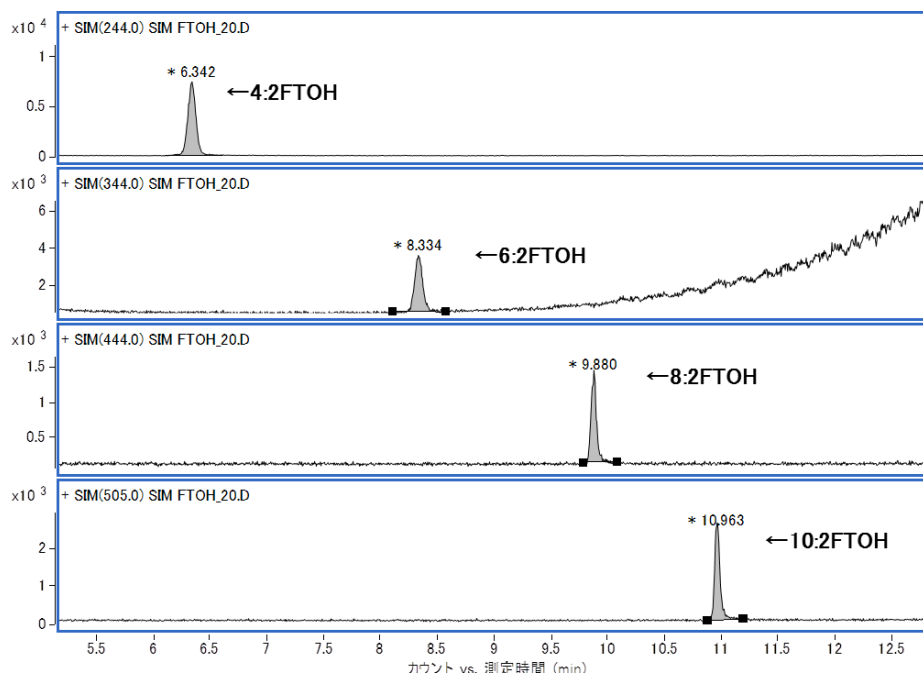
当事業団では、お客様のリスク管理に対応するため、製品・環境中に含まれるフッ素テロマーアルコール類に関する分析業務をご提案させていただきます。

【フッ素テロマーアルコール分析の料金表】

試料媒体	定量下限値	料金(税別)	
		基本料金(1成分)	その他1項目追加料金
製品	1ppm	30,000 円	10,000 円追加
環境水	0.1~0.01mg/L	40,000 円	10,000 円追加

※1 測定可能なフッ素テロマーアルコール: 6:2FTOH、8:2FTOH、10:2FTOH、6:2FTI、8:2FTI など

※2 試料由来の夾雑物の影響で、上記記載の定量下限値を確保できない場合もあります。



GC/MS 測定によるクロマト (フッ素テロマーアルコール標準物質)

製品中のフタル酸エステル類分析

フタル酸エステルは可塑剤として有用であり、広くフタル酸系可塑剤として使用されている物質です。

しかし、この物質は、日本では厚生労働省通知「食安第0906号第1号」にて玩具中のフタル酸エステル類についてDEHPとDINPが規制されています。また、EU では、EU 指令 2005/84/EC において、6種類のフタル酸エステル類が規制されています。さらに、RoHS 指令規制項目にも4物質が追加されました。また、DEHP・DBP・BBP については、すべてのおもちゃ・育児用品の規制対象にもなっています。

フタル酸エステル類は、今後も規制が強化されていく可能性が高い化学物質であり、お客様がご提供する製品中の含有量の調査(管理)は、経営のリスク管理上、非常に重要であると言えます。

【料金表】

項目	定量下限値	料金(税別)
3項目セット(DEHP,DBP,BBP)	10ppm	25,000 円
4項目セット(DEHP,DBP,BBP,DIBP)	10ppm	26,000 円
6項目セット(DEHP,DBP,BBP,DINP,DIDP,DNOP)	10～100ppm ^{※1}	28,000 円
7項目セット(DEHP,DBP,BBP,DINP,DIDP,DNOP,DIBP)	10～100ppm ^{※1}	29,000 円
個別分析	10～100ppm ^{※1}	20,000 円

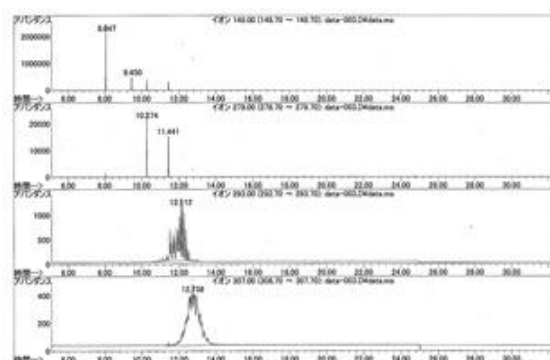
※1: DINP,DIDP の定量下限値は 100ppm です。

※2: 環境水・水道試料にも対応可能です。

※3: 試料媒体によっては、夾雑物の影響のため、上記の定量下限値が確保されない場合があります。

※4: 分析方法は、厚生労働省「食安発0906号第4号(溶媒浸漬抽出法)」または、EU「IEC 62321-8(ソックスレー抽出:ヘキサン)」または、EU「EN14372:2004(ソックスレー抽出法:ジエチルエーテル)」の何れかを選択して下さい。

※5: RoHS 対応の分析セットは、4項目、7項目セットです。



製品中のフマル酸ジメチル分析

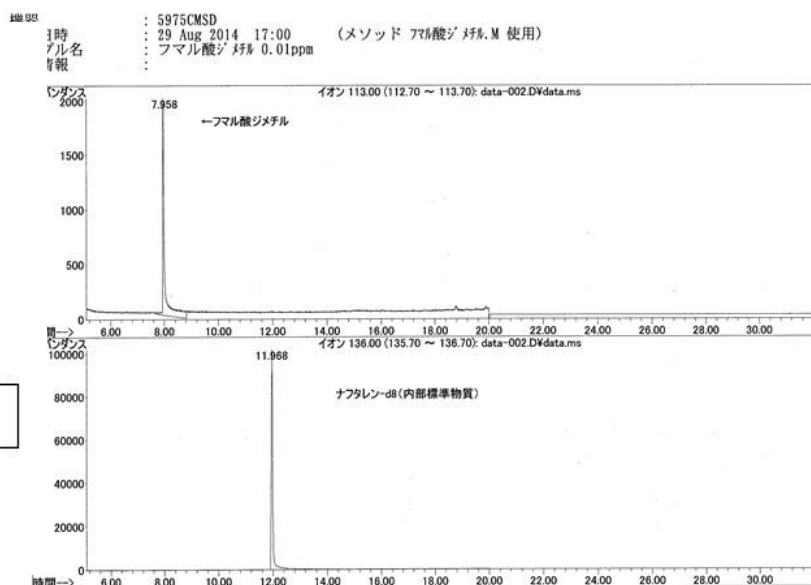
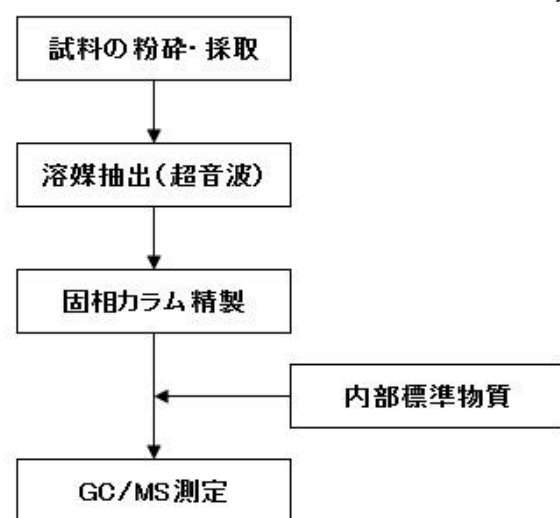
フマル酸ジメチル(DMF)は、革製の家具やソファーなどの防カビ剤や乾燥剤として広く用いられています。欧州においては、2009 年5月より、フタル酸ジメチル(DMF)を含有する製品の輸入を禁止する緊急法規(2009/251/EC)が発令されました。

この法規では、EU において、製品中のフマル酸ジメチル(DMF)濃度が、0.1ppm(mg/kg)を超えないことと定められています。日本国内においては、現時点では、未規制ですが、今後の動向により規制される可能性もあります。

当事業団では、製品中のフマル酸ジメチル(DMF)分析を下記の料金で受託させていただきます。

【料金表】

分析項目	分析方法	定量下限値	料金(税別)
フマル酸ジメチル(DMF)	溶媒抽出-GC/MS 法	0.1ppm	30,000 円



多環芳香族炭化水素化合物(PAHs)の分析

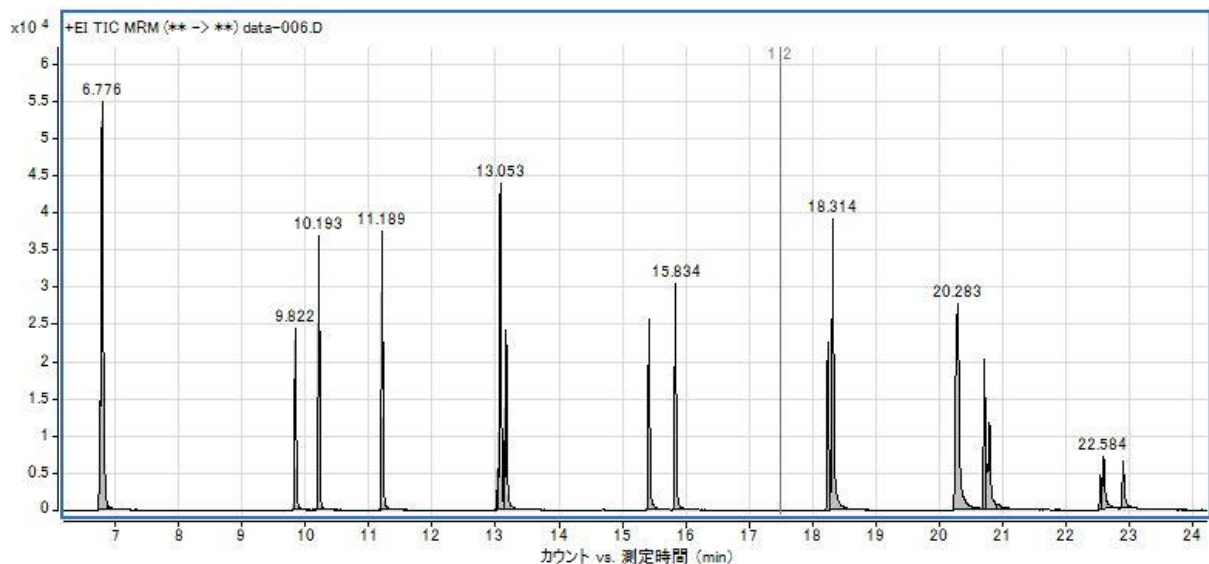
多環芳香族炭化水素化合物(PAHs)は、芳香族環を2個以上保有する化合物の総称であり、強い発がん性があることが知られています。PAHsは、主に原油(石油、軽油、タール)に含まれ、高分子材料の着色顔料や潤滑油等に用いられています。

2008 年4月1日よりドイツの製品安全承認(GS マーク認証:試験書番号「ZEK 01-08」)では、PAHs 分析(現在は 18 成分)を実施し評価することが必要になりました。また、ディーゼルエンジンの排ガスに含まれるなど、環境汚染物質としても注目されています。

また、REACH 規制制限の対象となる8種類の PAHs分析(ベンゾ(a)ピレン、ベンゾ(e)ピレン、ベンゾ(a)アントラセン、クリセン、ベンゾ(b)フルオランテン、ベンゾ(j)フルオランテン、ベンゾ(k)フルオランテン、ジベンゾ(a,h)アントラセン)にも対応も可能です。

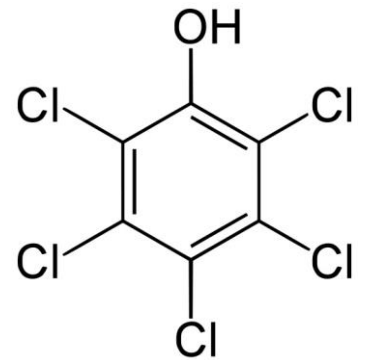
【料金表】

対象試料	検査対象成分	分析法	定量下限値	検査料金(税別)
工業製品・材料	REACH 規制対象 8 項目	EN16143:2013	0.5ppm	29,000 円～
工業製品・材料	GS マーク認証 18 成分	ZEK 01.2-08	20ppm	26,000 円～
			0.2ppm	30,000 円～
環境試料	お問合せ下さい	GC/MS 法	お問合せ下さい	



ペンタクロロフェノール(PCP)の分析

ペンタクロロフェノール(以下、「PCP」と略)は、過去に木材保護材、植物成長調節剤、除草剤に使用されていましたが、現在は、失効されています。また、PCPは、発がん性や強い魚毒性などが疑われています。平成27年5月、ジュネーブ(スイス)において、ストックホルム条約(POPs 条約)の第7回締約国会議(COP7)が開催され、新たに PCP とその塩及びエステル類が同条約の附属書 A(廃絶)に追加されることが決定されました(経済産業省 HP より)。附属書 A に追加された物質については、製造・使用等の廃絶に向けた取組を、今後、国際的に協調して行うこととなります。



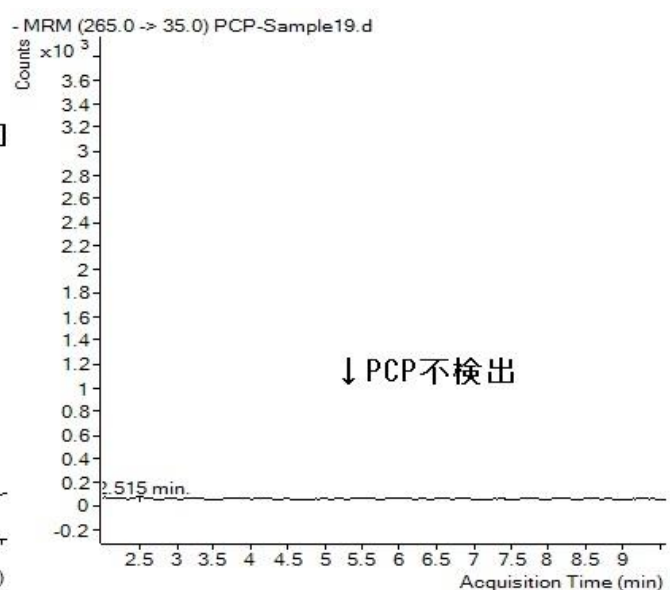
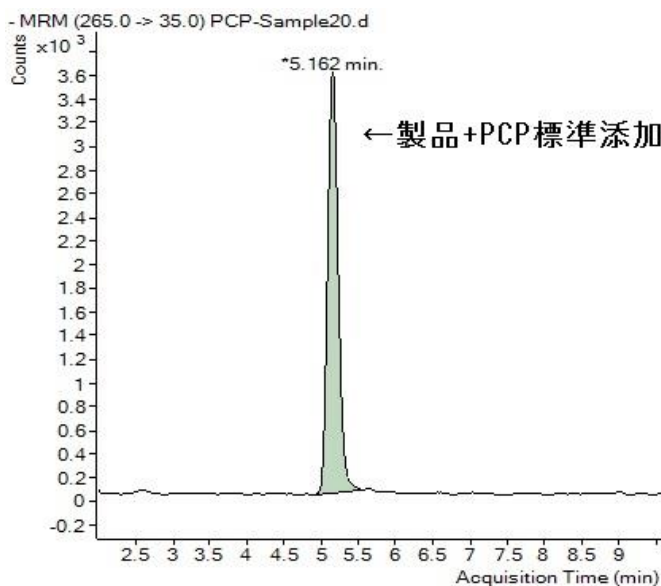
PCP の構造式

当事業団では、環境試料、製品中の PCP 含有試験について、最高な品質を業界最安値レベルでお客様にご提供いたします。

【料金表】

試料媒体	定量下限値	分析方法	最低試料量	分析料金(税別)
工業製品・材料	1ppm※1	・LC/MS/MS 法 ・誘導化-GC/MS 法	10g	30,000 円より
水道水・環境水	0.01 $\mu\text{g/L}$	・固相抽出-GC/MS 法	2L	30,000 円より

※1:PCP の定量下限値は、ご相談に応じます。



PCP 分析クロマトグラム(LC/MS/MS 法)

臭素系難燃剤の分析

臭素系難燃剤は安価で難燃性が高いため、現在世界中で最も多く使用されている難燃剤であり、多く家電製品のプラスチック、ゴム、織物などに使用されています。代表的な臭素系難燃剤として、ポリ臭素化ジフェニルエーテル(PBDEs)とポリ臭素化ビフェニル(PBBs)、テトラブロモビスフェノール A(TBBPA)があります。

しかし、人体残留性が指摘されたため、2006 年 7 月より欧州有害物質使用制限(RoHS)指令で使用が制限されるなど、世界的に使用制限(規制)の方向にあります。

また、平成 25 年 5 月 2 日に開催された、ストックホルム条約(POPs条約)の第 6 回締約国会議(COP6)において、新たにヘキサブロモシクロデカン(HBCD)が同条約の附属書 A(廃絶)に追加されることが決定されました。

【料金表】

項目	分析方法	定量下限値	料金(税別)
PBB (ポリ臭素化ビフェニル) PBDE (ポリ臭素化ジフェニルエーテル)	溶媒抽出-高分解 GC/MS	10ppm	38,000 円～
HBCD (ヘキサブロモシクロデカン)	溶媒抽出-LC/MS/MS	10ppm	25,000 円～
TBBPA (テトラブロモビスフェノール A)	溶媒抽出-LC/MS/MS	10ppm	25,000 円～
TBP (2,4,6-トリブロモフェノール)	溶媒抽出-LC/MS/MS	10ppm	25,000 円～
スクリーニング法(全臭素)	IEC62321 準拠(蛍光 X 線分析)	10ppm	9,000 円～

製品中のハロゲン分析

ハロゲン元素は、フッ素(F)、塩素(Cl)、臭素(Br)、ヨウ素(I)などの総称です。

従来から、電子・電気機器や付属製品中には、塩素及び臭素などは難燃剤として使用されてきました。しかし、ハロゲン元素を燃焼させると有害なハロゲンガスが発生します。ハロゲンガスは、酸性雨の原因など環境汚染の原因として指摘されています。また、毒性と腐食性が強いと言われており、人体への影響等が懸念されており、国際的に有害物質として規制される傾向にあります。

現在は、IEC や米国 ICP 等において、ハロゲンフリーが定義されており(①Cl 及び Br の含有量が各々900ppm 以下、②Cl 及び Br の総量が 1500ppm 以下)、代替品への移行が推進されています。

【料金表】

項目	定量下限値	検査料金(税別)
4項目セット(F、Cl、Br、I)	50ppm	20,000 円
2項目セット(Cl 、Br)	50ppm	16,000 円
個別分析	50ppm	14,000 円

※1:製品の形状によっては、別途、試料前処理料金を頂くことがあります。

※2:分析は、燃焼-イオンクロマトグラフ法です。

項目	分析方法	定量下限値	検査料金(税別)
リン	マイクロウェーブ抽出-ICP 発光法	50ppm	20,000 円
アンチモン	マイクロウェーブ抽出-ICP 発光法	10ppm	20,000 円

※:赤リンは総リンとして、また、三酸化アンチモンは総アンチモンとして分析を実施します。

材料分析、品質管理分析、評価試験法(分析法)開発業務

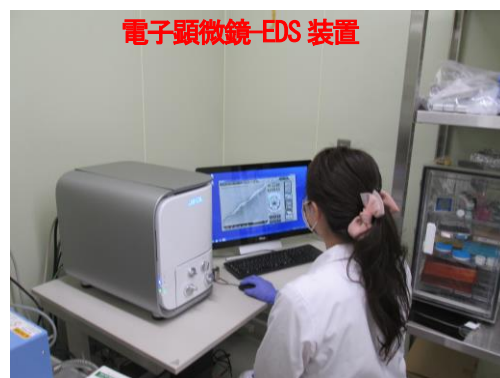
当事業団では、ソックスレー抽出、固相カラム抽出装置、高速溶媒抽出装置、マイクロウェーブ装置など様々な試料形態と抽出物質に対応した抽出装置を整備しています。

また、下記機器分析装置を装備しており、長年蓄積してきた分析経験及び知見をもとに、様々な形態の材料分析や品質管理試験をご提案させていただきます。

研究、開発、調査など目的に対応した評価試験についても、適切な試験方法をご提案させていただきますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

－ 保有装置の一例 －

実体・光学顕微鏡、蛍光 X 線装置、顕微 FT-IR 装置、SEM-EDS 装置(電子顕微鏡)、GC-FID 装置、GC/MS 装置、GC/MS/M 装置、HPLC 装置、LC/MS/MS 装置、IC 装置、原子吸光装置、ICP 装置、ICP-MS 装置、水銀測定装置、ゲルマニウム半導体検出器など



【品質管理試験業務の主な例】

- ・評価試験方法の提案、開発
- ・製品、材料(原料)、廃液等の化学物質含有量の確認試験
(化学物質:有効成分、無機化合物、有機化合物、環境負荷物質など)
- ・製品の熱分解評価試験
- ・医薬品原料、製品、材料成分の定性分析
- ・異物検査、異臭の定性分析

ご相談は下記まで。。。

一般財団法人三重県環境保全事業団
調査部 第二分析課 企画開発チーム

TEL:059-245-7508 FAX:059-245-7516
HP:http://www.mec.or.jp/k_bunseki/

